

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

### 病害虫発生予察特殊報について

令和3年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

### 令和3年度病害虫発生予察特殊報第2号

- 1 害虫名 : ランクロホシカイガラムシ
- 2 学名 : *Genaparlatoria pseudaspidotus* (Lindinger, 1905)
- 3 発生地帯 : 沖縄本島中南部
- 4 発生作物 : マンゴー

#### 5 発生確認の経緯

令和3年5月に豊見城市のマンゴー施設において、樹勢が低下し落葉が進むマンゴー樹が確認された(図1)。観察すると枝、葉柄、葉にマルカイガラムシ科の1種が多数寄生していた。沖縄県病害虫防除技術センターでプレパラート標本を検鏡したところ、県内未発生のランクロホシカイガラムシと考えられた。そこで九州大学総合研究博物館・愛媛大学農学部田中宏卓博士に同定依頼した結果、マルカイガラムシ科ランクロホシカイガラムシであると同定された。発生状況について、沖縄本島中南部、宮古島、石垣島のマンゴー施設で調査したところ、新たにうるま市のマンゴー施設において本種が確認された。国内において本種は東京都の温室と小笠原諸島でバンダ(ラン科)から記録があるが、1998年に鹿児島県与論島のマンゴーに発生していることが報告されている。

#### 6 被害

本種は、ラン科バンダ、デンドロビウム、ウルシ科マンゴー、マメ科、トウダイグサ科を含む6科13属に寄生する。マンゴーでは枝に寄生するのが多く見られるが、発生が多くなると葉柄、葉に寄生する。多発生時には生育が阻害され、樹勢低下を引き起こし、落葉する(図1)。亜熱帯原産の種で、世界各地でマンゴーの害虫として知られる。

#### 7 形態および生態

雌成虫の介殻は茶褐色、虫体は淡黄～淡紫色で、成熟すると暗赤色となる(図2～4)。ほぼ円形で成熟すると後方に白色・舌状の突出部を形成する。2齢幼虫脱皮殻が黒褐～黄緑色に薄く透けて見える。体長1.5mm程度。雄幼虫の介殻は、雌に似ているが楕円形で小型。ふ化幼虫は親介殻から離れて歩行移動し、植物に寄生する。雌は終始移動せずに植物に固着するが、雄は2齢幼虫から蛹を経て有翅成虫となる(図5)。年に数回世代を繰り返すとされているが、本県における発生生態は不明である。

#### 8 防除対策

- (1) 発生の見られる枝は除去しほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (2) 発生地域からの苗木の移動による本種の拡散に注意する。



図1 落葉する被害樹（右枠内は被害枝の拡大図）



図2 雌成虫(未成熟)



図3 雌成虫(成熟)



図4 雌介殻



図5 雄成虫

参考文献

山口卓宏ら(2000) 奄美群島で発生が確認されたマンゴ어의カイガラムシ類.九病虫研会報 46:132-135.

河合省三(1980) 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会. p 188.

河合省三(2003) マンゴー. 日本農業害虫大事典(梅谷献二・岡田利承 編).全国農村教育協会. pp 306-307.

García Morales, M. et al. (2016) ScaleNet: a literature-based model of scale insect biology and systematics. Database. Available from: <http://scalenet.info>

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>